

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はフロア内に掲示し、管理者と職員で確認し、実践に繋げている。	母体施設の基本方針に基づき、事業所独自の理念について職員間で話し合い、作成した理念をフロアに掲示し意識づけを図っている。職員は事業所理念の下、利用者主体の暮らしを大切に日々のサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の地域いきいきサロンへの参加も定着し、顔見知りの関係が出来て来た。地域行事への参加や防災訓練への協力体制も出来ている。	利用者が地域の中で安心して暮らしていくことが出来るようにとの思いから、地域行事への参加や防災訓練への協力など、積極的に地域との交流に向けた取り組みを進めている。2年毎に町内会の担当区域が変わるが、地域の方が気軽に立ち寄ることのできる施設づくりを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な地域貢献はできていないが、デイサービス事業を通して、利用者家族に様子を伝える事から始めている。また母体である高田の郷と一緒に地域公開講座にも参加し事業所の特徴を伝えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、助言や意見をうけ、できる事から実践し、サービス向上につなげている。会議での事業報告の仕方をより分かりやすく提案するようにしたり、地域に出向く機会として、いきいきサロンへの参加、買い物外出の継続に繋がっている。	会議は2カ月毎に開催しており、活動状況及び取り組み状況など報告されている。参加メンバーからの質問、助言、意見などは日々のサービス提供に活かしている。会議内容については家族にも便りと共に報告し、職員に対しても情報提供を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当の地域包括支援センターの職員が、運営推進会議のメンバーになっている。27年度は市の職員が毎回参加された。その他の年は、会議録の提出で報告している。通所介護利用者確保については、包括支援センターに情報提供や協力を得ている。	運営推進会議に市の職員が1年間担当され、活動状況や問題など積極的な話し合いが行われた。市町村との連携は会議だけでなく、折に触れ相談、助言、連絡等で関わる機会を設け協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年隣接母体施設での研修と、事業所フロア会議での確認をしている。防犯上、夜間のみ玄関を施錠している。	母体施設での研修と内部研修で身体拘束をしないケアについて学び理解を深めている。家族の同意の上でベットにセンサーを取り付けたこともあったが、弊害を認識し、「利用者の人権を守ることがケアの基本である」という認識の下、個々に感じている言葉を掲示し職員全員の意思統一がなされている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年隣接母体施設での研修と、事業所フロア会議での確認をしている。	身体拘束と同様に、母体施設での研修や事業所内のフロア会議で虐待防止について学び、「その人らしさ」を支えるケアに向けた取り組みがなされている。また、施設長は職員のストレスが蓄積されないように、なんでも相談できる雰囲気づくりに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年法人内のGHと地域密着施設の職員全員による権利擁護の研修会を実施。本年度も同様の研修会を行い、各自目標をたてて実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明させて頂き、理解を頂いた上で契約している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時の会話、電話でのやり取りの際に意見や要望を聞く機会としている。運営推進会議の場や、外部評価で出された意見はできることから取り入れられている。	家族には2カ月毎に事業所の会報と共に利用者の近況報告、電話、または面会時にて意見、要望等の把握に努めている。運営推進会議を利用して参加者に声掛け、意見、要望等を窺い、実践できるものは職員間で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から意見や提案を聞く姿勢でいる。提案があれば、直ぐに実践できるものから取組、周知や検討が必要であれば、フロア会議で共有してから実践に繋げている。	管理者は日常的に職員と会話の機会を持ちながら、意見や提案を聴く雰囲気づくりに努めている。また、日常業務の中から職員の気づき、要望などは職員間で話し合い共有して実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2度ある人事考課面接時や、毎月の勤務表作成時や勤務実績提出時等、代表者に状況を伝える機会がある。正職員には年に一度、異動調書が配布され、希望を提出し、次年度の人事異動の参考とされている。臨時職員にも話会う機会を持ち、目標を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修育成委員会を中心に、ステップアップ研修、スキルアップ研修、各グループ毎に各種研修を計画し、参加の機会を確保したり、法人外の研修への参加の申し出に後押ししてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が段取りし、職員が主に法人内であるが、同業者と交流を持ちながら研修する機会を作り、代表者に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの暮らしぶりをお聞きしたりご意見を確認し、ご本人を支援する良い関係作りになるべく努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話に真摯に耳を傾けている。面会や電話連絡の際に、ご意見を確認しご本人を支援する良い関係作りとなるべく努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の事前面接の段階で、ご本人やご家族の意向を確認し、初期の段階よりご本人の求めておられるサービスの提案ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できている事が続けられる様に、今できている事を見極め、できる事の継続や役割を持つことに繋げられる様に、支援している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1度、担当職員が状況報告の手紙を書いている。必要物品を依頼する際には、直接電話連絡で説明し、又家族付き添いの受診の際には、受診連絡票を準備した上で家族に説明し、受診時に備えている。	家族には担当職員が状況報告の手紙の中で、日々の暮らしの様子を報告し家族との関係継続に配慮しながら共に本人を支えていけるように努めている。病院受診以外にも利用者家族との繋がりを大切にしており、家族との思いにも寄り添いながら、共に支え合う関係構築が図られている。	利用者を支えるためには家族の協力も大切と考え、家族の負担にならないよう、家族の思いもくみ取りながら支援に努めている。難しい所もあるが、今後は病院受診以外に利用者と家族の絆を大切に行事参加の工夫等も視野に入れ、関係継続の支援に期待したい。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事の際には、可能な範囲で、それぞれの自宅周辺等、馴染みの場所付近を通る様に計画し道中説明しながら通ったり、身内の方や、知人の方々が面会に来られた際には、また来て頂けるように声を掛けたりしている。	今迄の生活習慣を尊重して、馴染みの場所やお店など、外出の際はできるだけ近くまで足を運ぶようにしている。身内の方や友人等が来られた時は、ゆっくり過ごしてもらえるよう配慮し、次回も気楽に訪ねてもらえるような対応を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見極め、テーブルの配席を決めたり、自由な席の場合は、関わりがスムーズにいくように、意図的な誘導する等している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所される方については、次の施設が決まるまで相談や支援に努めている。また関係施設に行かれた本人に関しては、機会ある毎に、声を掛けさせてもらっているが、家族までには会う事はできていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	半年に一度を目安に、ケアプラン会議を開催し、希望、意向の把握に努めている。日頃の様子を見たり、本人から申し出がある様な場合には、状況に応じて希望に添える様に、担当職員を中心に検討している。	本人の日常生活の中で、様子観察を行うとともに、希望や意向の把握に努めている。また、本人の申し出がある場合も含め、定期的にケアプラン会議を開催し、本人の状況に応じた支援ができるよう担当職員が中心となって、ケアマネージャー、家族からも参加してもらうなど、三者で確認しながら検討を重ねている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中から、話しを引き出す事で、馴染みの暮らし方等の把握に努めている。又家族や関係者からも詳細に把握できる様話しをする機会を持っている。	可能な限り本人や家族から詳細な情報を得ることで、馴染みの暮らしや生活環境などを把握するよう努めている。また、本人や家族からの引き出しが困難な場合は、インテークの段階で得た情報を下に、関係者との関わりを大切にしながら、本人のバックグラウンドからも情報を得よう工夫している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の記録をし、申し送り等の場で職員間の情報共有の場を持つことで、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が、センター方式により半年に一度、アセスメントし、打合せをしてからケアプラン会議開催。その後毎日のケアと毎月のモニタリング、3ヶ月毎の総括実施のサイクルで、ケアプランを作成している。	担当職員によるセンター方式のアセスメントシートを活用したケアプラン会議を開催し、本人、家族、関係職員等が十分検討を重ねた上で、介護計画の作成が行われている。さらに、日々の関わりや、毎月のモニタリングから見えてくる変化や気づきを踏まえた上で、3ヶ月ごとに総括的なプランの見直しを行い、本人の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランに沿ったケアの実施記録をケアプランの種別で記録し、1ヶ月ごとにモニタリング、3ヶ月毎に総括を記録し、見直しの際に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と相談しながら、必要物品の購入のための個人外出や、気分転換を兼ねた買い物外出等、可能な範囲での柔軟なサービスを心かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎回趣向を凝らした地域のいきいきサロンに1～2名ずつ順番に参加して貰っている。楽しんで参加して貰える様に、開催内容により参加者の選出に配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を確認し受診に繋げている。協力病院へは、定期的を受診している。	入所時において、協力病院へ移行するのか、掛かりつけ医の受診を継続するのか、本人と家族に確認している。協力病院への受診には、職員が同行し、定期的を受診支援を行っている。なお、緊急時の場合は、家族に連絡を取るとともに、日常的な状態説明も必要のため、職員も付き添いながら受診している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームでは、常勤の看護師はいないので、隣接母体施設の看護師に相談し、指示を受けている。また協力病院やかかりつけ医の指示を仰ぎ支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の関係者と情報を共有し、退院後の協力病院に繋げるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援は行っていない。代表者が認知症が進行して重度化になった場合は、対応できる施設への移行を考える様にとの考えの為、入居された当初よりその旨ご家族にお伝えしている。施設移行の際は、十分な話し合いを行っている。	終末期への支援は対応しない方針ではあるが、代表者としては重度化になった場合は対応出来る施設への移行支援を考えている。このことは、契約時に家族への説明もなされている。過去に退院後、状態が悪化し、やむを得ず他の施設へ移行したケースもあるが、可能な限り情報提供等の支援に努めていた。また、法人において、エンゼルケアの研修も開催されており、職員は知識修得のため受講している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、隣接母体施設での救急蘇生法訓練に参加している。フロア会議で確認の場を持ちたり、緊急時のマニュアルを作り急変時の対応に備えている。	職員は年に一度、母体施設で実施される救急蘇生法の訓練に参加している。受講後は、フロア会議で復習や再確認が行われている。マニュアルも整備されており、適宜、職員が目を通すことで、急変時の対応に備えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、隣接母体施設と同じタイミングで、地域住民参加の防災訓練に参加している。その他防災訓練計画に沿って参加し、必要に応じフロア会議で復命の機会を持っている。	年2回、隣接の母体施設との合同訓練に参加している。地域住民の協力も得て、避難場所や避難経路、所要時間など、詳細に確認し、昼夜を問わず避難できるよう対策を講じている。また、職員のフロア会議においても、災害時に備えた検討が重ねられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりの人として尊重した言葉かけや対応を行っている。	定期的に学習会を開催し、利用者の習慣やこだわりについて話し合い、一人ひとりの生活スタイルを尊重しながら、対応することを徹底している。特に介護の現場においては、本人のプライバシーに配慮しながら、言葉遣いにも留意して支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働き掛けをしているし、心掛けている。なかなか思いを表現できない人に対し、あらゆる場面で支援できているかは、課題である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりの人として尊重した言葉かけや対応・その人のペースに合わせた希望を支援するように努めている。9人の方一人ひとりの希望を全て支援できるかは、共同生活介護の枠の中では困難であるが、職員の意識付けはできている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を着て頂く、好きな髪形や髪の色等ご本人の意向を踏まえた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各々の好みに沿った、また季節のものを取り入れたメニューにしている。一人一人の力に応じて職員と一緒に調理作業を行ったり後片付けも毎食後に一緒に行っている。	利用者との日常会話の中で食事を話題にすることで、利用者の嗜好を把握し、食事が楽しみになるよう働きかけている。当番制により利用者から可能な手伝いをしてもらい、職員との共同作業で食事作りが行われており、一緒に食事することで、和やかな雰囲気が醸成されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、隣接母体施設の管理栄養士にメニューの内容を報告しチェックを受け、必要時には改善している。その他の支援はできている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行っている。介護が必要な方、見守りが必要な方一人ひとりの状態に合わせて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録等で排泄パターンを把握したり利用者の行動やしぐさ等観察し必要に応じ誘導している。失敗にて自尊心を傷付けないような配慮や直ぐに紙パンツ等の使用に移行しないように配慮している。	基本的にトイレでの排泄を最優先に考えているが、利用者ごとに排泄チェック表を作成し、利用者の行動や仕草から排泄パターンの把握に努めている。排泄を失敗したからといって、直ぐに紙パンツを着用させることはせず、自尊心を傷つけない配慮と自立支援の視点を大切に支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の観察を行い、食事や飲み物を工夫したり、十分な水分を摂って頂く様配慮している。屋内・屋外での散歩や体を動かすレク等を取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は、設備の都合上、午前・午後に分かれている。基本的には一日おきに入浴の声掛けしたり、決まっている時間内に気持ちに向かない場合は次の日に声を掛けるようにしている。	入浴の曜日指定はしていないが、入浴時間は午前・午後に分かれており、週3回は入浴できるよう配慮している。本人の体調や気分に合わせて、入浴を希望しない場合は、無理強いないで、日を改めて声掛けするなど、本人のペースに配慮する中で、清潔を保っている。また、各種の沐浴剤の利用による、リラックス効果を醸成する工夫もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの今までの暮らしが繋がる様に、環境を整え安心して休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解と確認に努めているが、今後も職員全員が、全利用者の把握ができるように努めたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いを持って日々暮らして頂けるように、ご本人のできる力や持っておられる力を活かし楽しみに繋げて支援している。今の生活を楽しくして頂けるよう無理のない範囲で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、一人ひとりの希望に添う事は難しいが、ゴミだし散歩や買い物等に出掛けている。また季節を感じて頂けるような外出を取り組んでいる。更にご家族の協力を得て、個別外出を楽しんで頂いている。	散歩をはじめ、生活必需品の買い物やゴミ出しなど日常的に外出を支援している。また、施設行事として、四季折々の花見やバスハイクなどを計画し、楽しんでもらっている。個々の外出希望については、ご家族等の協力を得るなどし、本人の希望が叶うよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前本人管理でお金を所持していた方がいた。但しそのお金で買い物に行く事はなかった。他の方については、本部の方針で日常的にお金を持って頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話を掛ける支援をしている。手紙については、本人と家族の関係を踏まえ、本人の状態を見ながら準備を進め、毎月の請求書の発送と併せて、手紙を書いて送る機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	他者との関係に配慮しながら、必要に応じて席替えをしている。空調設備の配置や、窓からの風景の影響を考慮しながら配席の検討をしている。	共有スペースは天井も高く、ゆったりとした居心地のよい空間となっている。春には職員、利用者との野菜作りも行われている。リビングには、季節感を採り入れた利用者の作品が展示され、温かい雰囲気にも包まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人や少人数で座る事ができる様、リビングの所々に椅子を置く様にしている。自ら選んだ場所に座ったり、必要に応じ職員が誘導する様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と相談したり、普段の様子から、使いやすいごちのよい空間となるように、必要に応じ配置替え等をする様にしている。又ご自分で作った作品を居室に飾っている。	本人や家族とも相談し、家具や調度品などは本人の使い慣れた馴染みの物や思い出の深い物を持参し、自宅の自室とのギャップを生じないよう工夫されている。また、本人の状態に対応しながら、必要に応じて室内の配置換えを行うなど、安全対策にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの利用者の普段の様子を見ながら、安全に、可能な範囲で自分で使用できるような環境作りに努めている。		